

第5章 具体的な取組

基本 目標

1

文化に親しむ機会をつくります

【みる・きく・ふれる】

施策1 文化芸術を鑑賞する機会の充実

成果指標	令和3年度	令和9年度
直接鑑賞した文化芸術がない割合	29.5%	27%

年齢や障がいの有無、国籍などにかかわらず、誰もが気軽に文化芸術を鑑賞することができる機会をつくり、文化と人をつなげます。

また、時間がない、出かけることができない等の理由により鑑賞の機会がない市民を含む多くの市民が、より身近な場所で質の高い文化芸術を鑑賞することができるように鑑賞機会をつくりだすとともに、文化芸術拠点の整備や発掘、充実に取り組みます。

①身近に鑑賞する機会の充実

年齢、ハンディキャップ、習熟度や社会的状況など、鑑賞者のあらゆる状況を想定し、テーマや発信手段を工夫します。

②多彩な鑑賞の機会の充実

文化会館や教育施設において、音楽、演劇、伝統芸能、美術など多様な分野の質の高い文化を鑑賞する機会をつくります。

主な取組

高砂文化教室「高砂学」、市美術展、文化まつり事業、公民館まつり など

施策2 文化芸術を体験する機会の充実

成果指標	令和3年度	令和9年度
自ら文化芸術に関わったことがない割合	81.7%	75%

文化芸術を「特別なもの」ではなく、日々の生活の中で自然に触れていると感じられるよう、始めやすく、楽しむことができ、ひいては個人の生きがいにつながるような文化芸術を体験する機会をつくります。

①身近に体験する機会の充実

「体験型」や「ワークショップ」など、体験の第1段階に気軽に取り組めるよう工夫します。

②体験のきっかけづくり

市民が親しみやすいという観点で、分野や内容を工夫した事業を実施します。

主な取組

高砂文化教室「高砂学」、高砂こども狂言ワークショップ など

施策3 子ども、若者世代が文化芸術に触れる機会の充実

成果指標	令和3年度	令和9年度
学校等で文化芸術体験を支援	9.4%	12%

子ども達や文化芸術に関心の薄い若者世代が、文化芸術に触れることや、地域に根差した文化芸術を学ぶ機会をつくり、文化、人、地域をつなげます。

文化の担い手を育成し、豊かな感性を育むことで、文化の垣根を越えた心豊かな人間性の育成を図ります。

①子ども達が文化芸術に触れる機会の充実 子ども達が優れた文化芸術を鑑賞したり体験したりする機会をつくります。	
②若者世代の文化芸術活動支援 若者世代が文化芸術活動に触れ、行動を起こすきっかけとなる機会をつくるため、活動拠点の研究や、各種団体との連携を支援します。	
主な取組	学校各種行事、ふるさと高砂学、高砂文化教室「高砂学」、文化連盟との連携 など

施策4 謡曲「高砂」に触れる機会の充実

成果指標	令和3年度	令和9年度
市の自慢したいものが「謡曲」	1.2%	5%

ふるさと高砂の文化を象徴する謡曲「高砂」を文化の拠点として、そのいわれや文化的価値を知る機会をつくり、幅広い年齢層がふるさとのうたとして認知することを目指します。

①子ども達が謡曲「高砂」に触れる機会の充実 教育の場において、謡曲「高砂」を学ぶ機会を設けます。	
②市民が謡曲「高砂」を学び、知る機会の充実 謡曲「高砂」について学ぶ機会を充実させるとともに、講座以外の学びの機会の創出について研究します。	
主な取組	高砂文化教室「高砂学」、高砂こども狂言ワークショップ、謡曲「高砂」の授業 など

施策1 活動する個人や団体の活動推進

成果指標	令和3年度	令和9年度
自身の文化活動を重要とする割合	53.1%	65%

体験などにより芽生えた活動意欲を維持し恒常的な活動につなげるため、また、すでに活動している市民や団体の自主的な文化芸術活動をより活性化させるために、各実施主体の実情に合わせた支援や、成果を発表、展示する機会の充実を図ります。

①市民、団体の自主的な文化活動の支援	
実施主体の現状とニーズを把握し、活動継続のための支援を継続します。	
②展示や発表など、成果を発表する機会の充実	
やりがいの創出のために、展示や発表の場を工夫します。	
主な取組	市美術展、文化まつり事業、展示スペースの活用、公民館まつりなど

施策2 人材の育成と活用

成果指標	令和3年度	令和9年度
文化芸術を学び教える機会が増えた割合	1.0%	5.0%

文化芸術を次代につなげるために、市民の知的要求にこたえとともに、指導者数やその知識を向上するために、講座や企画展を実施します。

人と人、人と地域をつなぎ、且つそれらをつなぐ人材を育て、郷土を愛する市民のベースアップを図り、伝承者が途絶えることのないような仕組みの構築を図ります。

①次代を担う文化芸術活動の推進	
若い世代が展示や発表する機会を設けたり、子ども達への指導者として活用する機会を設けます。	
②コーディネーター、ボランティアの活用	
文化知識に精通した専門家や研究者等の知識、経験の活用、地域に根差した活動者のコーディネーターやボランティアとしての活用を図ります。	
主な取組	高砂文化教室「高砂学」、市民教養講座、まち歩き など

施策3 文化芸術振興のための環境づくり

成果指標	令和3年度	令和9年度
市主催の文化事業を全く知らない割合	38.1%	30%

文化芸術が持つ多面的な魅力を発揮する活動を発掘し推進するため、既存の活動の場を引き継ぎ、又は拡充するほか、企画展や新たな活動手法の提案など、新たな展開の可能性を検討します。

これらの実現のために情報収集を行い、市民、団体、企業とのつながりを深める施策に取り組みます。

①文化芸術活動を行う場の充実	
個人や団体の活動を継続し、それらの充実を図ることで、活動の新たな可能性を見出し、発展を図ります。	
②つながりの充実	
活動する個人や団体、事業者が連携し、文化施策の充実を図ります。	
③多様な文化交流の促進	
国内外との文化交流により、両者の文化振興の契機を創出します。	
主な取組	学校各種行事、ふるさと「高砂学」、高砂文化教室「高砂学」、文化連盟との連携、国内、国際交流事業 など

施策4 謡曲「高砂」の普及

成果指標	令和3年度	令和9年度
市の自慢したいものが「謡曲」（再掲）	1.2%	5%

文化の象徴である謡曲「高砂」を、そのいわれとともに広く市内外に広めるために、様々な機会が多面的にPRし、またPRの機会を積極的に模索します。

①謡曲「高砂」の活用	
ターゲットと啓発手法のマッチングにより、広く謡曲を啓発します。	
②PR機会の確保	
謡曲「高砂」を効果的に啓発するために、啓発手法を工夫します。	
主な取組	高砂文化教室「高砂学」、謡曲「高砂」CDの配付、広報活動 など

施策1 文化資源の保存と継承

成果指標	令和3年度	令和9年度
高砂市を文化的なまちと感じる割合	19.7%	25%

市の特色とも言える文化資源の保存・活用に関わる市民や団体の連携を通じて、保存や活用の主要拠点としての整備を促進します。

また特産品との有機的連携により、食文化と地域をつなぐ機会の創出を図ります。

①文化資源の保存と地域の魅力の伝承	
継承されてきた文化資源を保存し、より深い調査や研究を促進します。	
②行政内部及び関係機関による保存の推進	
庁内他部署との情報共有に努め、文化資源の効果的な保存を推進します。	
主な取組	ふるさと文化財登録制度、高砂文化教室「高砂学」 など

施策2 文化資源と文化的人材の顕彰

成果指標	令和3年度	令和9年度
高砂市を文化的なまちと感じる割合（再掲）	19.7%	25%

文化的価値のある地域の財産（人財、物財）を発掘し、その功績を顕彰し市民に広く紹介することで、ふるさとの良さを再発見するとともに、地域への誇りを高め、地域の活性化に寄与します。

①地域の財産の発掘及び顕彰	
地域ゆかりの文化的財産を発掘し、その功績を顕彰します。	
②地域の財産の情報収集	
市民や団体、関係機関から情報を収集する仕組みづくりについて検討します。	
主な取組	ふるさと文化財登録制度、文化賞表彰、SNSの活用、高砂文化教室「高砂学」 など

施策3 文化資源の普及啓発

成果指標	令和3年度	令和9年度
高砂市を文化的なまちと感じる割合（再掲）	19.7%	25%

地域にある重要な文化資源を活用したり、学習の機会を設け、より広く永く伝えていく施策に取り組むとともに、観光や産業関連の事業とのつながりを築き、文化資源を活かした地域の活性化をめざします。

①地域における文化資源の活用	
地域の文化資源と共鳴する歴史的価値を活かし、産業、観光分野との連携により、魅力あるまちづくりに努めます。	
②学習機会の拡充	
郷土の伝統を学ぶ機会を確保し、伝統文化の継承を図ります。	
主な取組	高砂文化教室「高砂学」、日本三奇観光パートナーシップ、ふるさと「高砂学」 など

施策4 謡曲「高砂」の継承

成果指標	令和3年度	令和9年度
市の自慢したいものが「謡曲」（再掲）	1.2%	5%

文化の象徴である謡曲「高砂」を、地域の誇りとして次代につなぐ施策に取り組みます。

①すべての市民が謡曲「高砂」を学び、知る機会の充実	
謡曲「高砂」について学ぶ機会を充実させるとともに、講座以外の学びの機会の創出について研究します。	
主な取組	高砂文化教室「高砂学」、高砂こども狂言ワークショップ、謡曲「高砂」の授業、広報活動 など

施策1 情報の収集と発信

成果指標	令和3年度	令和9年度
情報がないことから事業に参加しなかった割合	29.6%	20%

市内で開催される文化芸術に関する講座やイベント、各施設に関する情報、活躍している芸術家や文化資源などについて、活動している又は活動意欲がある市民に届けたい情報が多くあります。

情報を的確に捉え、効果的に発信する仕組みを整備します。

①文化に関する情報の収集	
市民、団体と連携し、活動の活性化に寄与する情報を積極的に収集します。	
②文化に関する情報発信の強化	
広報誌、ガイドブック、機関誌等を積極的に活用し、情報を広く発信します。	
主な取組	「広報たかさご」への掲載、報道機関との連携、施設の機関誌 など

施策2 電子媒体を活用した情報発信

成果指標	令和3年度	令和9年度
情報がないことから事業に参加しなかった割合（再掲）	29.6%	20%

スマートフォンやタブレットなどの通信機器の普及により、動画配信サイトやSNSで情報を収集する市民が増えています。

文化芸術に関する情報についても、電子媒体の利便性を最大限に活用するように努めるとともに、市民全てが情報を積極的に収集しやすくなる環境を整備します。

①情報の電子化の研究、活用	
電子媒体を活用し、より効果的な情報の発信をはかります。	
主な取組	市ホームページ、SNS（フェイスブック、インスタグラム、ライン） など



竜山